

問1 液体を加熱した際、液体内部から気泡が盛んに発生し、温度が一定に保たれる状態の変化を何という？

1. 昇華 2. 融解 3. 沸騰 4. 凝固

問2 水溶液を冷やしたり蒸発させたりして、溶けていた物質を固体として取り出す操作を何という？

1. 蒸留 2. 再結晶 3. ろ過 4. 昇華

問3 固体が熱せられて液体へと状態を変えることを何という？

1. 沸騰 2. 昇華 3. 融解 4. 凝固

問4 水溶液において、他の物質を溶かし込んでいる液体そのものを何という？

1. 溶液 2. 溶媒 3. 溶媒物 4. 溶質

問5 液体を容器に入れたとき、液面の境界線が表面張力によってわずかに湾曲する現象を何という？

1. 底面 2. 気泡 3. 液面 4. メニスカス

問6 呼気や炭酸飲料の泡などに含まれ、石灰水を白くにごらせるという特徴を持つ物質は何という？

1. アンモニア 2. 窒素 3. 酸素 4. 二酸化炭素

問7 酸素と同様に水に溶けにくく、火を近づけると反応する特徴を持つため、水上置換法で捕集される気体は何か？

1. ヘリウム 2. 窒素 3. 水素 4. 酸素

問8 蒸留を行う際、加熱によって発生した気体を冷やして液体に戻すために用いる管状のガラス器具を何という？

1. 蒸留フラスコ 2. 沸騰石 3. ビーカー 4. 冷却管

問9 溶液を作る際、溶媒に溶かされる側の物質を何という？

1. 溶質物 2. 溶媒 3. 溶液 4. 溶質

問10 二酸化炭素が水に溶けてリトマス紙などを変色させるような、水溶液としての性質を何という？

1. 酸性 2. 中性 3. アルカリ性 4. 水溶性

問11 亜鉛などの金属に塩酸を加えると発生し、火を近づけると音を立てて燃える性質を持つ無色の気体は何か？

1. 水素 2. 窒素 3. 塩素 4. 酸素

問12 液体を加熱して気体にし、再び冷やして液体に戻すことで分ける方法において、その物質ごとの固有の数値を何という？

1. 沸点 2. 密度 3. 融点 4. 凝固点

問13 一定の温度において、それ以上溶質を溶かすことができなくなった状態を何という？

1. 不飽和 2. 溶解 3. 過飽和 4. 飽和

問14 一定温度において、100グラムの水に溶かすことができる物質の限界量のことを何という？

1. 溶解度 2. 質量パーセント濃度 3. 飽和 4. 密度

問15 水に溶けにくく、密度が小さい気体を捕集するために適した、水槽を用いる実験方法を何という？

1. 水上置換法 2. 上方置換法 3. 下方置換法 4. 排気置換法

問16 2種類以上の物質が混ざり合っているものを何という？

1. 混合物 2. 単体 3. 化合物 4. 純物質

答え合わせ・解説

問1	答え 3 沸騰	液体が沸点に達すると、表面だけでなく内部からも気体が発生し始めます。このとき、液体に加えた熱エネルギーはすべて状態変化に使われるため、液体の温度は一定に保たれます。これを沸騰と呼びます。
問2	答え 2 再結晶	物質の温度による溶解度の差を利用して行う手法です。高温で飽和させた水溶液をゆっくり冷やすことで、溶けきれなくなった物質を綺麗な結晶として成長させ、不純物を取り除きます。実験室で物質の純度を高めるための標準的な手順です。
問3	答え 3 融解	固体に熱を加えると、その振動が限界を超えて配列が崩れ、自由に動き回れる液体になります。この現象を融解といいます。融解が起こる温度は物質ごとに決まっており、融点と呼ばれます。
問4	答え 2 溶媒	溶質を溶かし込んでいる液体を指します。水溶液の場合は水が該当しますが、有機化学の世界ではアルコールやアセトンなども使われます。この液体が溶質をどれだけ溶かせるかによって、飽和状態などの濃度が決まります。
問5	答え 4 メニスカス	メニスカスとは、容器の壁面と液体との間の表面張力によって生じる液面の湾曲のことです。水のようにガラスを濡らす液体では中央がへこんだ凹状になり、水銀のように濡らさない液体では中央が盛り上がった凸状になります。目盛りを正確に読み取るためには、液面のへこみの最下部、または盛り上がりの最上部を水平な目線で確認する必要があります。この読み取りの正確さが、実験結果の精度を左右します。
問6	答え 4 二酸化炭素	二酸化炭素は、炭素が酸素と結びついてできる無色無臭の気体です。水酸化カルシウムを溶かした石灰水に通すと、炭酸カルシウムができて白くにごるという独特の反応を示します。この性質は、二酸化炭素の存在を確認するための重要な試験として実験で多用されます。
問7	答え 3 水素	水上置換法は、水に溶けにくい気体を容器内に水を満たした状態で集める手法です。水素や酸素はこの方法で集めることで、空気と混ざらず高い純度で回収できます。
問8	答え 4 冷却管	冷却管は、内側の管を通る気体を、外側の筒を流れる水で冷やす構造をしています。この器具を使うことで、効率的に熱を奪い、気体を液体へと凝縮させることが可能です。
問9	答え 4 溶質	溶質は溶液を構成する成分のうち、溶かされる側（食塩など）を指します。一方、溶かす側の液体は溶媒（水など）と呼ばれます。これらが混ざり合うことで溶液が形成されます。
問10	答え 1 酸性	二酸化炭素は水に少し溶け、溶けた分の一部が水と反応して炭酸を生じます。このため、二酸化炭素を溶かした水溶液はリトマス紙を赤く変色させる「酸性」を示します。
問11	答え 1 水素	水素は原子番号1番の元素であり、非常に軽いため大気中に存在することは稀です。火を近づけると「ボン」という音を立てて酸素と激しく反応し、水へと変化する性質を持っています。
問12	答え 1 沸点	沸点とは、液体が加熱されて沸騰し、気体になるときの温度です。この温度は、物質の種類によって決まっているため、加熱した際に特定の温度で出てくる気体を回収することで、目的の物質だけを取り出すことができます。
問13	答え 4 飽和	これ以上溶かすことができない状態を飽和と呼びます。この状態にある水溶液は飽和水溶液と呼ばれ、これ以上物質を加えても溶け残るようになります。
問14	答え 1 溶解度	溶解度は、特定の物質が一定量の溶媒（通常は水100g）に限界まで溶ける量を示したものです。多くの固体物質では、水の温度が高くなればなるほど、この限界値は大きくなります。この性質を利用して、一度熱い水に溶かしてからゆっくり冷やすことで結晶を取り出す「再結晶」という手法が行われます。グラフにまとめることで、物質ごとの溶けやすさの違いを視覚的に理解することができます。この知識は化学の基礎であり、薬品の精製や工業的な製造プロセスにおいて極めて重要です。
問15	答え 1 水上置換法	水上置換法は、水を満たした容器を水槽に逆さまに入れ、その中に気体を送り込む手法です。気体が水よりも軽いために上昇し、水を押しのけて瓶の中に溜まります。水にほとんど溶けない気体に適しており、見た目でどれくらい溜まったか確認できる利点があります。
問16	答え 1 混合物	混合物は、性質の異なる複数の物質が均一あるいは不均一に混ざり合っている状態です。例えば食塩水や空気などがこれに該当します。

問1 物質が固体・液体・気体と状態を変えても、全体として変化しない物理量を何という？

1. 体積 2. 重さ 3. 密度 4. 質量

問2 液体の中に物体を入れたとき、その物体が浮かぶか沈むかを決定づける、物体の単位あたりの質量を何という？

1. 質量 2. 体積 3. 比重 4. 密度

問3 水に溶けにくく、密度が小さい気体を捕集するために適した、水槽を用いる実験方法を何という？

1. 水上置換法 2. 上方置換法 3. 下方置換法 4. 排気置換法

問4 すべての物質を構成する、それ以上分けることができない非常に小さな単位を何というか？

1. 分子 2. イオン 3. 電子 4. 原子

問5 食塩やガラスのように、炭素を含まないか燃えにくい性質を持つ物質の分類を何という？

1. 炭水化物 2. 有機物 3. タンパク質 4. 無機物

問6 一定の温度において、それ以上溶質を溶かすことができなくなった状態を何という？

1. 不飽和 2. 溶解 3. 過飽和 4. 飽和

問7 二酸化炭素を通すと白くにごる性質を持つ、水酸化カルシウムの水溶液を何という？

1. フェノールフタレイン溶液 2. リトマス紙 3. 石灰水 4. 塩化コバルト紙

問8 ある一定の温度で、水100gに溶ける溶質の限界の量を表す数値を何という？

1. 沸点 2. 密度 3. 溶解度 4. 濃度

問9 固体に熱エネルギーを加え続けると、粒子が激しく動き出し、最終的に液体へと状態が変化することを何という？

1. 凝固 2. 融解 3. 昇華 4. 気化

問10 物質の三態のうち、形や体積が一定で決まった形をしている状態を何という？

1. 液体 2. 気体 3. プラズマ 4. 固体

問11 液体を容器に入れたとき、液面の境界線が表面張力によってわずかに湾曲する現象を何という？

1. 底面 2. 気泡 3. 液面 4. メニスカス

問12 密度が空気より小さく、かつ水に極めて溶けやすい気体を捕集するために用いる方法を何という？

1. 排気置換法 2. 水上置換法 3. 下方置換法 4. 上方置換法

問13 原子が結びついてできている、物質の性質を示す最小の単位を何というか？

1. 中性子 2. イオン 3. 原子 4. 分子

問14 物質から不純物を取り除き、より純粋な状態に高める操作を何という？

1. 精製 2. 濃縮 3. 蒸発 4. 抽出

問15 酸素と同様に水に溶けにくく、火を近づけると反応する特徴を持つため、水上置換法で捕集される気体は何か？

1. ヘリウム 2. 窒素 3. 水素 4. 酸素

問16 液体混合物を加熱して、それぞれの成分が気体になる温度差を利用して目的の成分を分離・回収する操作を何という？

1. ろ過 2. 抽出 3. 再結晶 4. 蒸留

答え合わせ・解説

問1	答え 4 質量	物質を構成している粒子は、状態変化してもその数や個々の重さは変化しません。したがって、物質全体としての重さである質量は常に一定に保たれます。一方で、粒子同士の間隔は大きく変わるため、物質が占める体積は変化します。
問2	答え 4 密度	密度は、質量を体積で割った値（g/cm ³ ）で定義されます。この値が液体よりも大きければその液体中に沈み、小さければ浮かぶという性質があります。物質固有の性質であり、純物質であれば温度や圧力によって決まった値を示します。
問3	答え 1 水上置換法	水上置換法は、水を満たした容器を水槽に逆さまに入れ、その中に気体を送り込む手法です。気体が水よりも軽いために上昇し、水を押しのけて瓶の中に溜まります。水にほとんど溶けない気体に適しており、見た目ですでにどれくらい溜まったか確認できる利点があります。
問4	答え 4 原子	原子は中心にある原子核と、その周りを回る電子で構成されています。すべての物質はこの原子の種類や結びつき方によって性質が決まります。
問5	答え 4 無機物	有機物とは対照的に、炭素原子を主成分としていないか、構造的に安定していて燃えにくい物質を指します。食塩や金属、ガラス、石などが代表例です。これらの物質は高温にさらしても二酸化炭素をほとんど発生させないことが特徴です。
問6	答え 4 飽和	これ以上溶かすことができない状態を飽和と呼びます。この状態にある水溶液は飽和水溶液と呼ばれ、これ以上物質を加えても溶け残るようになります。
問7	答え 3 石灰水	石灰水は水酸化カルシウムの飽和水溶液です。二酸化炭素と反応すると、水に溶けにくい炭酸カルシウムが生成されるため、溶液が白くにごるという特徴があります。この反応は二酸化炭素の性質を調べるための定番の試験法です。
問8	答え 3 溶解度	溶解度は、通常100gの溶媒に溶かすことができる溶質の最大量（グラム単位）で表されます。この値は物質の種類によって異なり、一般的に温度が高いほど大きくなる性質を持っています。グラフにすると、温度と溶解度の関係が視覚的に理解しやすくなります。
問9	答え 2 融解	固体の状態では規則正しく並んでいた粒子が、熱によってエネルギーを得ると激しく振動し始めます。この振動が限界を超えると、粒子間の結びつきが弱まり、流動性を持つ液体へと変化します。この変化が起こる温度を融点と呼びます。
問10	答え 4 固体	分子や原子が互いに強く引き合い、位置をほとんど変えずに規則正しく並んでいる状態です。そのため、器に入れても形が変わらず、体積も一定です。食塩の結晶などがこの状態の典型例です。
問11	答え 4 メニスカス	メニスカスとは、容器の壁面と液体との間の表面張力によって生じる液面の湾曲のことです。水のようにガラスを濡らす液体では中央がへこんだ凹状になり、水銀のように濡らさない液体では中央が盛り上がった凸状になります。目盛りを正確に読み取るためには、液面のへこみの最下部、または盛り上がりの最上部を水平な目線で確認する必要があります。この読み取りの正確さが、実験結果の精度を左右します。
問12	答え 4 上方置換法	上方置換法は、容器を逆さまにして、気体を下から入れ込み、容器内の空気を上に追い出すことで気体を集める方法です。アンモニアのように水に非常に溶けやすく、空気よりも密度が小さい場合に適しています。
問13	答え 4 分子	原子が化学結合によって結びついたものを分子と呼びます。例えば、酸素原子が2つ結びついたものは酸素分子となり、酸素としての性質を持ちます。
問14	答え 1 精製	精製は、物質の性質の差を利用して不純物を取り除くプロセスです。再結晶による方法のほか、沸点の差を利用する蒸留や、ろ過、抽出など、目的の物質に応じた様々な手段が選ばれます。
問15	答え 3 水素	水上置換法は、水に溶けにくい気体を容器内に水を満たした状態で集める手法です。水素や酸素はこの方法で集めることで、空気と混ざらず高い純度で回収できます。
問16	答え 4 蒸留	蒸留は、この沸点の差を利用する分離方法です。混合物を加熱して低い温度で沸騰する成分をまず気化させ、それを冷やして液体に戻すことで回収します。これにより、ワインからエタノールを取り出したり、海水から真水を作ったりすることが可能です。

問1 密度が空気より小さく、かつ水に極めて溶けやすい気体を捕集するために用いる方法を何という？

1. 排気置換法 2. 上方置換法 3. 下方置換法 4. 水上置換法

問2 水に溶けにくい気体を集めるのに適している、試験管を水中で逆さまにして気体を捕集する方法を何という？

1. 水上置換法 2. 排気置換法 3. 上方置換法 4. 下方置換法

問3 亜鉛などの金属に塩酸を加えると発生し、火を近づけると音を立てて燃える性質を持つ無色の気体は何か？

1. 酸素 2. 窒素 3. 塩素 4. 水素

問4 物質が一定量の水に溶ける限界の量を、温度による変化を含めて何という？

1. 密度 2. 質量パーセント濃度 3. 溶解度 4. 飽和

問5 実験室で、分銅とつり合わせて物体の質量を測定する器具を何という？

1. ピペット 2. ガスバーナー 3. 上皿てんびん 4. メスシリンダー

問6 水に溶けにくく、密度が小さい気体を捕集するために適した、水槽を用いる実験方法を何という？

1. 上方置換法 2. 水上置換法 3. 下方置換法 4. 排気置換法

問7 粒子が規則正しく並び、一定の幾何学的な形をしていて、決まった方向に割れる性質を持つ固体を何という？

1. 結晶 2. 非晶質 3. 液体 4. 気体

問8 デンプンや砂糖など、生物由来の成分が多く含まれる有機物のグループを何という？

1. 脂肪 2. タンパク質 3. デンプン 4. 糖類

問9 一定の温度において、それ以上溶質を溶かすことができなくなった状態を何という？

1. 不飽和 2. 溶解 3. 過飽和 4. 飽和

問10 呼吸や炭酸飲料の泡などに含まれ、石灰水を白くにごらせるという特徴を持つ物質は何という？

1. アンモニア 2. 二酸化炭素 3. 酸素 4. 窒素

問11 物質の三態のうち、形や体積が一定で決まった形をしている状態を何という？

1. 液体 2. 気体 3. 固体 4. プラズマ

問12 水溶液において、他の物質を溶かし込んでいる液体そのものを何という？

1. 溶媒 2. 溶液 3. 溶媒物 4. 溶質

問13 固体が熱せられて液体へと状態を変えることを何という？

1. 融解 2. 昇華 3. 沸騰 4. 凝固

問14 酸素と同様に水に溶けにくく、火を近づけると反応する特徴を持つため、水上置換法で捕集される気体は何か？

1. ヘリウム 2. 窒素 3. 水素 4. 酸素

問15 水溶液中で電離し、その水溶液に酸性という性質を持たせるもととなる粒子を何という？

1. ナトリウムイオン 2. 水酸化物イオン 3. 塩化物イオン 4. 水素イオン

問16 ある一定の温度で、水100gに溶ける溶質の限界の量を表す数値を何という？

1. 沸点 2. 溶解度 3. 密度 4. 濃度

答え合わせ・解説

問1	答え 2 上方置換法	上方置換法は、容器を逆さまにして、気体を下から入れ込み、容器内の空気を上に追い出すことで気体を集める方法です。アンモニアのように水に非常に溶けやすく、空気よりも密度が小さい場合に適しています。
問2	答え 1 水上置換法	この方法では、水槽に張った水の中で試験管を逆さまにし、気体を送り込みます。気体が水よりも軽ければ上方へ、重くても水に溶けなければそのまま気泡として試験管内に溜まります。不純物が混ざりにくく、集まった気体が純粋であるという大きな利点があります。
問3	答え 4 水素	水素は原子番号1番の元素であり、非常に軽いため大気中に存在することは稀です。火を近づけると「ポーン」という音を立てて酸素と激しく反応し、水へと変化する性質を持っています。
問4	答え 3 溶解度	溶解度は、通常、水100gに溶ける溶質の最大質量（g）で表されます。この値は物質の種類ごとに異なり、多くの固体物質では温度が高くなるほど大きな値になります。
問5	答え 3 上皿てんびん	上皿てんびんは、左右の皿に載せた物体の重さを分銅と釣り合わせることで測定する器具です。測定する場所の重力に関係なく、物体そのものの量を正しく測定できるため、科学実験の基本として広く使われています。使用時には水平な場所に設置し、ゼロ点調整を行うことが重要です。電子天秤などのデジタル機器が普及した現在でも、物理の基本原則を学ぶ教育現場において重要な役割を果たしています。
問6	答え 2 水上置換法	水上置換法は、水を満たした容器を水槽に逆さまに入れ、その中に気体を送り込む手法です。気体が水よりも軽いために上昇し、水を押しのけて瓶の中に溜まります。水にほとんど溶けない気体に適しており、見た目でどれくらい溜まったか確認できる利点があります。
問7	答え 1 結晶	原子や分子が一定のパターンで規則正しく積み重なってできている固体を指します。顕微鏡で見ると立方体や正八面体といった幾何学的な形をしており、力を加えると決まった面に沿って割れるという特徴があります。
問8	答え 4 糖類	これらは主に炭素、水素、酸素から構成される化合物です。植物が光合成によって生産するデンプンや、私たちが摂取する砂糖などが代表例であり、有機物の中でも非常に重要なグループです。燃焼させると二酸化炭素と水に分かれるという性質を持ちます。
問9	答え 4 飽和	これ以上溶かすことができない状態を飽和と呼びます。この状態にある水溶液は飽和水溶液と呼ばれ、これ以上物質を加えても溶け残るようになります。
問10	答え 2 二酸化炭素	二酸化炭素は、炭素が酸素と結びついてできる無色無臭の気体です。水酸化カルシウムを溶かした石灰水に通すと、炭酸カルシウムができて白くにごるという独特の反応を示します。この性質は、二酸化炭素の存在を確認するための重要な試験として実験で多用されます。
問11	答え 3 固体	分子や原子が互いに強く引き合い、位置をほとんど変えずに規則正しく並んでいる状態です。そのため、器に入れても形が変わらず、体積も一定です。食塩の結晶などがこの状態の典型例です。
問12	答え 1 溶媒	溶質を溶かし込んでいる液体を指します。水溶液の場合は水が該当しますが、有機化学の世界ではアルコールやアセトンなども使われます。この液体が溶質をどれだけ溶かせるかによって、飽和状態などの濃度が決まります。
問13	答え 1 融解	固体に熱を加えると、その振動が限界を超えて配列が崩れ、自由に動き回れる液体になります。この現象を融解といいます。融解が起こる温度は物質ごとに決まっており、融点と呼ばれます。
問14	答え 3 水素	水上置換法は、水に溶けにくい気体を容器内に水を満たした状態で集める手法です。水素や酸素はこの方法で集めることで、空気と混ざらず高い純度で回収できます。
問15	答え 4 水素イオン	酸性の物質（酸）が水に溶けると、分子が水素原子を放出し、正の電気を帯びた状態になります。この粒子の存在こそが酸性の正体であり、リトマス紙を赤く変えたり、金属を溶かしたりする反応を引き起こします。逆に、アルカリ性を示す場合は別の種類の粒子が関与しており、中和反応はこの二つが反応して水を作る過程を指します。
問16	答え 2 溶解度	溶解度は、通常100gの溶媒に溶かすことができる溶質の最大量（グラム単位）で表されます。この値は物質の種類によって異なり、一般的に温度が高いほど大きくなる性質を持っています。グラフにすると、温度と溶解度の関係が視覚的に理解しやすくなります。

問1 液体の中に物体を入れたとき、その物体が浮かぶか沈むかを決定づける、物体の単位あたりの質量を何という？

1. 質量 2. 密度 3. 比重 4. 体積

問2 液体を加熱して気体にし、それを冷やして再び液体として取り出す分離操作を何という？

1. 蒸留 2. 再結晶 3. ろ過 4. 抽出

問3 蒸留実験において、液体を加熱する際に突発的な沸騰による飛び散りを防ぐためにあらかじめ入れる小石状のものを何という？

1. ガラス棒 2. 温度計 3. ろ紙 4. 沸騰石

問4 一定温度において、100グラムの水に溶かすことができる物質の限界量のことを何という？

1. 飽和 2. 質量パーセント濃度 3. 溶解度 4. 密度

問5 酸素と同様に水に溶けにくく、火を近づけると反応する特徴を持つため、水上置換法で捕集される気体は何か？

1. ヘリウム 2. 水素 3. 窒素 4. 酸素

問6 一定の温度において、それ以上溶質を溶かすことができなくなった状態を何という？

1. 飽和 2. 溶解 3. 過飽和 4. 不飽和

問7 物質が水に溶けていて、時間が経過しても沈殿せず均一である液体を何という？

1. 乳濁液 2. 膠質溶液 3. 懸濁液 4. 水溶液

問8 亜鉛などの金属に塩酸を加えると発生し、火を近づけると音を立てて燃える性質を持つ無色の気体は何か？

1. 塩素 2. 窒素 3. 水素 4. 酸素

問9 物体が占める空間の大きさ（体積）を表す単位のうち、1辺1cmの立方体の大きさを基準としたものを何という？

1. 立方センチメートル 2. 立方メートル 3. リットル 4. ミリリットル

問10 水溶液を冷やしたり蒸発させたりして、溶けていた物質を固体として取り出す操作を何という？

1. 蒸留 2. 再結晶 3. ろ過 4. 昇華

問11 2種類以上の物質が混ざり合っているものを何という？

1. 純物質 2. 単体 3. 化合物 4. 混合物

問12 密度が空気より小さく、かつ水に極めて溶けやすい気体を捕集するために用いる方法を何という？

1. 排気置換法 2. 水上置換法 3. 上方置換法 4. 下方置換法

問13 一度溶かした物質を、温度を下げたり溶媒を蒸発させたりして、再び固体として取り出す操作を何という？

1. 蒸留 2. 再結晶 3. ろ過 4. 抽出

問14 蒸留を行う際、加熱によって発生した気体を冷やして液体に戻すために用いる管状のガラス器具を何という？

1. 冷却管 2. 沸騰石 3. ピーカー 4. 蒸留フラスコ

問15 物質から不純物を取り除き、より純粋な状態に高める操作を何という？

1. 蒸発 2. 濃縮 3. 精製 4. 抽出

答え合わせ・解説

問1	答え 2 密度	密度は、質量を体積で割った値（g/cm ³ ）で定義されます。この値が液体よりも大きければその液体中に沈み、小さければ浮かぶという性質があります。物質固有の性質であり、純物質であれば温度や圧力によって決まった値を示します。
問2	答え 1 蒸留	蒸留は液体を加熱し、沸点の低いものを先に気体にしてから冷却して再び液体として回収する手法です。これにより純度の高い液体を得ることができます。
問3	答え 4 沸騰石	沸騰石は、表面に無数の小さな穴が開いているセラミック製の小石です。この穴の中に含まれる空気が小さな泡の核となり、液体の沸騰を穏やかに促すことで、突沸を防ぐ役割を果たします。
問4	答え 3 溶解度	溶解度は、特定の物質が一定量の溶媒（通常は水100g）に限界まで溶ける量を示したものです。多くの固体物質では、水の温度が高くなればなるほど、この限界値は大きくなります。この性質を利用して、一度熱い水に溶かしてからゆっくり冷やすことで結晶を取り出す「再結晶」という手法が行われます。グラフにまとめることで、物質ごとの溶けやすさの違いを視覚的に理解することができます。この知識は化学の基礎であり、薬品の精製や工業的な製造プロセスにおいて極めて重要です。
問5	答え 2 水素	水上置換法は、水に溶けにくい気体を容器内に水を満たした状態で集める手法です。水素や酸素はこの方法で集めることで、空気と混ざらず高い純度で回収できます。
問6	答え 1 飽和	これ以上溶かすことができない状態を飽和と呼びます。この状態にある水溶液は飽和水溶液と呼ばれ、これ以上物質を加えても溶け残るようになります。
問7	答え 4 水溶液	水溶液は溶質が溶媒である水に均一に分散した液体です。最大の特徴は、時間が経っても溶質が底に沈殿せず、透明で均一な状態を保つことです。
問8	答え 3 水素	水素は原子番号1番の元素であり、非常に軽いため大気中に存在することは稀です。火を近づけると「ボン」という音を立てて酸素と激しく反応し、水へと変化する性質を持っています。
問9	答え 1 立方センチメートル	体積とは、物体が三次元空間において占める範囲の大きさのことです。単位としては、一辺が1センチメートルの立方体の大きさを基準とした立方センチメートルなどが使われます。液体の場合、この単位はミリリットルと同じ値になります。物体がどのような形状であっても、この単位を用いることで大きさを比較することが可能です。科学の実験において正確なデータを得るためには、この体積を正しく把握することが非常に大切です。
問10	答え 2 再結晶	物質の温度による溶解度の差を利用して行う手法です。高温で飽和させた水溶液をゆっくり冷やすことで、溶けきれなくなった物質を綺麗な結晶として成長させ、不純物を取り除きます。実験室で物質の純度を高めるための標準的な手順です。
問11	答え 4 混合物	混合物は、性質の異なる複数の物質が均一あるいは不均一に混ざり合っている状態です。例えば食塩水や空気などがこれに該当します。
問12	答え 3 上方置換法	上方置換法は、容器を逆さまにして、気体を下から入れ込み、容器内の空気を上に追い出すことで気体を集める方法です。アンモニアのように水に非常に溶けやすく、空気よりも密度が小さい場合に適しています。
問13	答え 2 再結晶	温度による溶解度の差を利用し、熱い飽和水溶液をゆっくり冷やすことで、溶けきれなくなった物質を純粋な結晶として析出させます。この操作を繰り返すことで、より純度の高い物質を得ることが可能です。
問14	答え 1 冷却管	冷却管は、内側の管を通る気体を、外側の筒を流れる水で冷やす構造をしています。この器具を使うことで、効率的に熱を奪い、気体を液体へと凝縮させることが可能です。
問15	答え 3 精製	精製は、物質の性質の差を利用して不純物を取り除くプロセスです。再結晶による方法のほか、沸点の差を利用する蒸留や、ろ過、抽出など、目的の物質に応じた様々な手段が選ばれます。

問1 二酸化炭素を通すと白くにごる性質を持つ、水酸化カルシウムの水溶液を何という？

1. フェノールフタレイン溶液 2. リトマス紙 3. 石灰水 4. 塩化コバルト紙

問2 蒸留実験において、液体を加熱する際に突発的な沸騰による飛び散りを防ぐためにあらかじめ入れる小石状のものを何という？

1. ガラス棒 2. 温度計 3. ろ紙 4. 沸騰石

問3 一定の温度において、それ以上溶質を溶かすことができなくなった状態を何という？

1. 不飽和 2. 溶解 3. 過飽和 4. 飽和

問4 一定温度において、100グラムの水に溶かすことができる物質の限界量のことを何という？

1. 溶解度 2. 質量パーセント濃度 3. 飽和 4. 密度

問5 一度溶かした物質を、温度を下げたり溶媒を蒸発させたりして、再び固体として取り出す操作を何という？

1. 蒸留 2. 再結晶 3. ろ過 4. 抽出

問6 固体に熱エネルギーを加え続けると、粒子が激しく動き出し、最終的に液体へと状態が変化することを何という？

1. 凝固 2. 融解 3. 昇華 4. 気化

問7 物質から不純物を取り除き、より純粋な状態に高める操作を何という？

1. 精製 2. 濃縮 3. 蒸発 4. 抽出

問8 液体の体積を正確に測定するために、細長い円筒状の形状をしており、細かい目盛りが刻まれているガラス製の測定器具を何という？

1. ホールピペット 2. メスシリンダー 3. ビュレット 4. 三角フラスコ

問9 食塩やガラスのように、炭素を含まないか燃えにくい性質を持つ物質の分類を何という？

1. 炭水化物 2. 有機物 3. タンパク質 4. 無機物

問10 すべての物質を構成する、それ以上分けることができない非常に小さな単位を何というか？

1. 分子 2. イオン 3. 電子 4. 原子

問11 酸素と同様に水に溶けにくく、火を近づけると反応する特徴を持つため、水上置換法で捕集される気体は何か？

1. ヘリウム 2. 窒素 3. 水素 4. 酸素

問12 物質が一定量の水に溶ける限界の量を、温度による変化を含めて何という？

1. 密度 2. 質量パーセント濃度 3. 飽和 4. 溶解度

問13 二酸化炭素が水に溶けてリトマス紙などを変色させるような、水溶液としての性質を何という？

1. 酸性 2. 中性 3. アルカリ性 4. 水溶性

問14 亜鉛などの金属に塩酸を加えると発生し、火を近づけると音を立てて燃える性質を持つ無色の気体は何か？

1. 水素 2. 窒素 3. 塩素 4. 酸素

問15 水に溶けにくく、密度が小さい気体を捕集するために適した、水槽を用いる実験方法を何という？

1. 水上置換法 2. 上方置換法 3. 下方置換法 4. 排気置換法

答え合わせ・解説

問1	答え 3 石灰水	石灰水は水酸化カルシウムの飽和水溶液です。二酸化炭素と反応すると、水に溶けにくい炭酸カルシウムが生成されるため、溶液が白くにごるという特徴があります。この反応は二酸化炭素の性質を調べるための定番の試験法です。
問2	答え 4 沸騰石	沸騰石は、表面に無数の小さな穴が開いているセラミック製の小石です。この穴の中に含まれる空気が小さな泡の核となり、液体の沸騰を穏やかに促すことで、突沸を防ぐ役割を果たします。
問3	答え 4 飽和	これ以上溶かすことができない状態を飽和と呼びます。この状態にある水溶液は飽和水溶液と呼ばれ、これ以上物質を加えても溶け残るようになります。
問4	答え 1 溶解度	溶解度は、特定の物質が一定量の溶媒（通常は水100g）に限界まで溶ける量を示したものです。多くの固体物質では、水の温度が高くなればなるほど、この限界値は大きくなります。この性質を利用して、一度熱い水に溶かしてからゆっくり冷やすことで結晶を取り出す「再結晶」という手法が行われます。グラフにまとめることで、物質ごとの溶けやすさの違いを視覚的に理解することができます。この知識は化学の基礎であり、薬品の精製や工業的な製造プロセスにおいて極めて重要です。
問5	答え 2 再結晶	温度による溶解度の差を利用し、熱い飽和水溶液をゆっくり冷やすことで、溶けきれなくなった物質を純粋な結晶として析出させます。この操作を繰り返すことで、より純度の高い物質を得ることが可能です。
問6	答え 2 融解	固体の状態では規則正しく並んでいた粒子が、熱によってエネルギーを得ると激しく振動し始めます。この振動が限界を超えると、粒子間の結びつきが弱まり、流動性を持つ液体へと変化します。この変化が起こる温度を融点と呼びます。
問7	答え 1 精製	精製は、物質の性質の差を利用して不純物を取り除くプロセスです。再結晶による方法のほか、沸点の差を利用する蒸留や、ろ過、抽出など、目的の物質に応じた様々な手段が選ばれます。
問8	答え 2 メスシリンダー	メスシリンダーは、化学実験において液体の量を正確に測るために不可欠な器具です。ビーカーに比べて細長く設計されており、目盛りが細かく刻まれているため、より小さな体積の変化でも読み取ることが可能です。使用する際は必ず水平な場所に置き、目の高さを液面に合わせて読み取る必要があります。ガラス製だけでなく、割れにくいプラスチック製のものもあり、用途に応じて使い分けられます。基本的な実験操作を習得する上で、最も頻繁に使用される道具の一つです。
問9	答え 4 無機物	有機物とは対照的に、炭素原子を主成分としていないか、構造的に安定していて燃えにくい物質を指します。食塩や金属、ガラス、石などが代表例です。これらの物質は高温にさらしても二酸化炭素をほとんど発生させないことが特徴です。
問10	答え 4 原子	原子は中心にある原子核と、その周りを回る電子で構成されています。すべての物質はこの原子の種類や結びつき方によって性質が決まります。
問11	答え 3 水素	水上置換法は、水に溶けにくい気体を容器内に水を満たした状態で集める手法です。水素や酸素はこの方法で集めることで、空気と混ざらず高い純度で回収できます。
問12	答え 4 溶解度	溶解度は、通常、水100gに溶ける溶質の最大質量（g）で表されます。この値は物質の種類ごとに異なり、多くの固体物質では温度が高くなるほど大きな値になります。
問13	答え 1 酸性	二酸化炭素は水に少し溶け、溶けた分の一部が水と反応して炭酸を生じます。このため、二酸化炭素を溶かした水溶液はリトマス紙を赤く変色させる「酸性」を示します。
問14	答え 1 水素	水素は原子番号1番の元素であり、非常に軽いため大気中に存在することは稀です。火を近づけると「ボン」という音を立てて酸素と激しく反応し、水へと変化する性質を持っています。
問15	答え 1 水上置換法	水上置換法は、水を満たした容器を水槽に逆さまに入れ、その中に気体を送り込む手法です。気体が水よりも軽いために上昇し、水を押しのけて瓶の中に溜まります。水にほとんど溶けない気体に適しており、見た目ですぐにどれくらい溜まったか確認できる利点があります。